

# まち全体を共創による課題解決のフィールドに！ ～ まちづくり実証実験 ～

取組主体：古賀市 / (株)ASPREAD / 福岡工業大学 / (株)グルーヴノーツ / サクラディア合同会社 / (一社)シェアリングエコノミー協会

多様化・複雑化する地域課題に対して、企業やNPO、まちづくり団体などの様々な主体が独自の観点や強みを活かした解決策を提案する取組を広く公募し、古賀市のまち全体をフィールドとして、企業やNPO、まちづくり団体それぞれの強みを活かすとともに、古賀市の地域資源をシェアすることで、広く共創による実証実験を行います。

課題  
や現状

- 多様化・複雑化する地域課題に対して、行政の視点のみでの取組には限界がある
- 【課題例】子どものキャリア教育、シティプロモーション、DX、ビックデータの活用、行政手続における市民負担軽減 など

解決策や  
アイデア

- 企業やNPO、まちづくり団体などの様々な主体が独自の観点や強みを活かした解決策を提案する取組を広く公募し、古賀市のまち全体をフィールドとして、企業やNPO、まちづくり団体それぞれの強みと古賀市の地域資源をシェアすることで、広く実証実験を行う

取組状況  
や成果

- 生きる力「伝える力」を育むキッズメディアLABO（特別記者体験イベント）
- 介護予防にビックデータ活用の可能性を探る仮名加工情報データ解析
- デジタルに触れ、「できる」を伝えるプログラミング教室
- 自治会業務の効率化・負担軽減に向けた業務システムを通した自治会向けS I サービス事業
- スキマ時間やスキルを活かした多様な就労ニーズに応えるオンラインワーカー育成講座

## 生きる力「伝える力」を育むキッズメディアLABO 特別記者体験イベント

㈱ASPREAD（エスプリード）×古賀市

実証分野：子どものキャリア教育×シティプロモーション

### 現状と課題

- 将来を担う子どもたちに対して夢や目標をもてるキャリア教育が必要である
- 市内に魅力的な企業があることをPRし、企業の周知と雇用促進につなげる必要がある
- 子どもたちが市内の企業、産業を知り、将来古賀市で働くイメージを持つ機会を創出する必要がある
- HP、SNSなどを活用してシティプロモーションを推進する必要がある

### 実証実験内容

- キッズリポーター体験イベントを開催し、市内企業にブースを出展してもらい、子どもたちがプロの機材に触れつつ取材体験を行う
- プロのアナウンサーによるプレゼン力がUPするレッスンの実施
- 子どもたちの学びの成果を生かした取材体験発表会を開催し、マスコミを通じてPR

### 取組状況や成果

- 全4回のプログラムに延べ200人以上の親子が参加
- 最初は人前で喋ることができなかった子どもが自分の意見をはっきり伝えることができるようになるなど、参加した子ども・保護者の満足度は高かった
- 協力していただいた市内企業に対して、プロアナウンサーのインタビュー動画を納品するとともに市HPへの掲載によりPRを行う



## 介護予防へのビックデータ活用の可能性を探る仮名加工情報データ解析事業

福岡工業大学 × 古賀市

実証分野：DX × ビッグデータの活用

現状と課題



実証実験内容



取組状況や成果

- 介護予防のしくみを確立するなど超高齢社会に備える必要がある中、地方自治体等が保有する大量で多様なデータが活用
  - 機械学習を含むデータサイエンス技術の適用によって市民の健康に関する将来の状態を予測できれば、人的・物的資源の長期的な準備に加えて、健康寿命延伸のための革新的な取り組みの創出が期待できる。
- 
- 市の保有するデータを仮名加工した上で提供し、市民の介護の有無と要介護度に対し、データがどのように関連しているかを網羅的に調査し、将来の健康状態に影響を及ぼす可能性のあるデータの候補を特定する
  - 将来の健康状態に影響を及ぼす可能性のあるデータの候補について、実際に影響があり得るかをヒアリングで確認
- 
- データ解析の結果、高齢化率と要介護認定割合に関連性が認められた関連について分析を深めるアンケート調査を実施し、さらに検証を進めていく

## デジタルに触れ、「できる」を伝えるプログラミング教室

(株)グルーヴノーツ × 古賀市

実証分野：子どものキャリア教育 × DX

現状と課題



実証実験内容



取組状況や成果

- 人口減少や高齢化、Society5.0時代の到来に備え、子どもたちの将来を生き抜く力を育成する必要がある
  - 一人ひとりに応じたきめ細かな支援をするため、デジタル教育などのさまざまな学習活動ができる学びの場の提供が必要
- 
- 最新のテクノロジー教育を体験できる機会を設け、将来像としてスキルを持った多年代（大学生など）とも交流することで、子どもたちが自身の将来についてより具体的なイメージや可能性を感じられる機会を創出
  - パソコンを使ってAI・プログラミング、デザインなどの最新テクノロジーを使った創作を体験し、子どもたちがテクノロジーを身近に感じられる機会を提供し、子どもたちの可能性を広げる
- 
- 11月の子どもイベントに出展し、定員満員。当日参加の問い合わせも多数あり、参加者の満足度非常に高い
  - アンケートから、プログラミングに興味を持ち、今後も学びたいという感想、サポートの大学生も興味を持ってもらう手法を習得



## 自治会業務の効率化・負担軽減に向けた業務システムを通じた自治会向けS I サービス

サクラディア合同会社 × 古賀市

実証分野：行政手続における市民負担軽減 × D X

現状と課題

- 各業種・業界でDXによる業務改善が急務となる中、古賀市の行政区においても同様の状況。提案者も区の役員となる中でDXの必要性を再確認する一方、行政区の力だけでは限界がある。システムの最適化や担える人材も課題

実証実験内容

- SIer(個別のサブシステムを集めて1つにまとめ上げ、それぞれの機能が正しく働くように完成させるシステムインテグレーション事業を行う個人や企業)がモデル区と一緒にシステムの構築・導入および保守までを行い、行政区におけるDX成功事例をめざす
- モデル区を対象に2つのシステムを活用した行政区向けSIサービスの実証実験を行い、具体的なDX効果があるかを検証する

取組状況や成果

- 行政区管理システム及び会計システムを構築し、モデル区にて実証運用を行う中で、具体的なDX効果について検証中
- R6年度にモデル区において実装し、区長会等の場を活用して他の行政区へDX効果を紹介し波及させる

## 多様な就労ニーズに応えるオンラインワーカー育成講座

(一社)シェアリングエコノミー協会 × 古賀市

実証分野：D X × 多様な働き方の実現

現状と課題

- 豊富な経験やスキルを有しながらも、子育てその他の理由によりキャリアを中断し、可能な範囲で働きたいというニーズがある
- パソコンを使用した事務経験がない。または事務職経験者の中にもオンライン経験がない、苦手意識がある人が一定数存在

実証実験内容

- オンライン事務ワーカー養成講座を入門講座・実践講座に分けて対面とオンラインで各4回開催し、経験豊富な講師が伴走支援することで、テレワークスキルの習得と実際の仕事受注につなげる
- 快生館をハブとしてテレワーカーの集う拠点とし、シェアリングエコノミーサービスを活用し、フルタイム就労が難しい人や企業での事務経験のない人でも、古賀市に住みながら在宅で就労できる環境をめざす

取組状況や成果

- 10~12月に入門講座・実践講座を各4回開催、入門講座は31人、実践講座は22人参加(定員満員)
- 満足度97%、参加者の半数以上が今後オンラインワーカー実践を希望、2人は既に個人で仕事を受注している
- HPやSNSでの告知後、すぐに参加申込が集まっており、多様な働き方のニーズの高まりを確認



## 持続可能な取り組みとするためのポイント

- 地域課題の解決に向け、事業をいきなり全体的に本格実施するのではなく、実証実験を先行して実施することで成果の検証と課題の洗い出しが可能となり、ブラッシュアップや横展開を加えることで実装の確度を向上させることができ、持続可能な取組が構築されることが期待できます。
- 実証分野にデジタルやDXの視点を加えることで、実装時にデジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）等、国などの財政的支援の活用を検討でき、取組の持続可能性が高まります。
- 共創のまちづくり（ワークショップやリビングラボによりまちづくりの協働の担い手となるプレーヤーを育成する事業）と事業間連携を図り、育成されたプレーヤーがまちづくりの想いを実証実験を活用して発現させるなど、地域活性化の好循環の実現により、持続可能性を高めます。

## 付記（任意）

- 地域課題の解決に向け、多様な角度から専門性の高い知見・経験を有する企業やNPO、まちづくり団体などの様々な主体と連携し、提案を受けることで、行政単独では発現しないアイデアというエッセンスをまちづくりのフィールドに溶け込ませることができます。
- 実証実験を進める中で、温泉旅館をリノベーションし、温泉やシェアオフィス、コワーキングスペースを備えたインキュベーション施設「快生館」や、JR古賀駅前の音楽教室をリノベーションし、チャレンジ出展可能な店舗スペースやシェアキッチンを備えた食の交流拠点「るるる」といった多様な地域資源を市・事業者・参加者でシェアすることで、古賀市独自の環境・視点を踏まえた実装へのアプローチを可能にします。



インキュベーション施設「快生館」



食の交流拠点「るるる」

